

銀山用電信電話

坑内の止木即ち、
其の他動力を起
す材の需用も極め
て山の麓に至つて

地へ運搬すること
 材は之れを低地よ
 料の必要は極めて
 焼く必要があるの
 る

ひるには必ず其の
供給をなし得る
なつて来る之れに
感一面よりすれば
あつて職業の良

用も亦激増を來
 而用い亦激増を來
 濟の上から考へ
 不材との密接なる
 は今日の急務たる

あるといふ便宜の
ある一例を挙げ
る。一ヶ年の燃料
は一尺立方十二を

つであるが雲山の
其の鑛石製煉に
を以て只動力を
を必要とするの

如何に斯の如く一ヶ
爲めに附近山林
伐であるから其他
如何に木材の必

物課と協議のうへ
山附近の殖林を
興の第一要義は

學計 一時盛
基督教は併合以
激の頃きあるは

るが分けて外人の如きは信者たしなむに動機其も信ぜしに非ず謂ば外人の庇護を受

なるより日韓併
合は茲に自然消
合となり遂に其
き今日に立至り

ぞして當京城に
 るやにて既に米
 達の爲め渡米せ
 か茲に聞くが儘

1

●本日休載

宗匠訪問録(五)

竹本梅丈

浄瑠璃

花

月

酒

花

花

花

花

九歳まで矢張り端唄の緒

奈良の桐卯社に詣で

官から名を貰ったのは

春太夫さんで豊澤松太郎

家歸る夜中一時

井出三郎の公判

有無を問はれ全然之を知

非認し其手形は既に他人に譲

浮氣女に二人夫

時代

●井出三郎の公判

●有無を問はれ全然之を知

●非認し其手形は既に他人に譲

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

●浮氣女に二人夫

●時代

完全無缺の大目薬あり

大目薬は帝國醫科大學病院の處方
基とし貴重の製劑にして流行目
薬より星目のほせ目かすみ
血目腫れ目其他眼病一切に可敷奇効
あり

大坂市北濱一丁目



大目薬

高橋